

地域と町のパイプ役として

木村まさひろ

です。

木村
まさひろ後援
会ニュース
発行・編集:
木村まさひろ
後援会

次の世代に より良い社会を

議員活動報告



高畠町議会議員の木村 雅博
(きむら まさひろ)です。
一昨年(令和5年)8月の町議
員選挙から2年が経とうとしてい
ます。これまで、皆様の声を町政
に反映させるべく活動してまいり
ました。

地域コミュニティの活性化を目指す

政策提言

総務文教常任委員会における
2年間の総括として、町への提言
を取りまとめ、6月議会終了後に
提出します。

テーマは「地域コミュニティ
の活性化」と「高畠高校の存続」
についてです。

特に地域活性化は、私の政治公
約のひとつですので、今後も引き

ますは、後援会ニュースの作成
とお届けが疎かになっていたこと
をお詫び申し上げます。そして、
昨年夏以降の約1年間の活動をご
報告いたします。

総務文教常任委員会

議会活動は「総務文教常任委員
会」に所属しています。

令和6年10月28日から30日
にかけて、岡山県和気町、奈義町へ
視察研修を行いました。
和気町には県立和気閑谷(わけ

防災士

今後の議員活動や「まちづくり」に生かしていけるのではと思い、令和6年度の山形県防災士養成研修講座を受講し、防災士の資格をとりました。今後、町内に防災士の仲間を増やしたいな。



ワールド・カフェ

令和6年11月15日に、宮城県
柴田町議会を訪問し、意見交換の
手法の一つである「ワールド・カ
フェ」を受講しました。

広聴活動の一環で、今年1月
27日、農業委員会の皆さんとの
意見交換会をワールド・カフェ方
式で実施しました。参加者からは
好評で、この「席替える井戸端
会議」を様々な団体の皆さんとも
ごいっしょしたいと考えています。

一般質問

この2年間、8回の定例会にお
いて5回の一般質問を行いました。
「学校給食を利用して有機農業
の発展を」では、高畠中学校の木
村養教諭と糠野目小学校の高橋



続き取り組んでまいります。

もう一つの常任委員会である
「広報広聴常任委員会」では、広
聴部会に所属しています。



白鷹町議会
関副議長、衣袋議員と

自主的な政策勉強会「こぶしの会」では、1月30日に視察研修を行い、白鷹町の町民の足の確保について、河北町では給食無償化について話をうかがいました。

こぶしの会 視察研修



校長に、自給野菜組合の活動状況等をうかがいました。
「次代を担う若者の政治参加」については、南陽市教育委員会の佐野課長と佐藤指導主事に「南陽みらい議会」についてお話を聞きました。

新人議員の七星会

新人議員の勉強会「七星会」で情報交換会や研修会等を継続的に行っています。

令和6年11月10日、早稲田大学名誉教授で早稲田環境塾代表の原剛先生をお招きし、「高島町の可能性」についてお話しをお聞きしました。



全国オーガニック給食フォーラム

令和6年11月9日 茨城県常陸大宮市で開催された「第2回全国オーガニック給食フォーラム」に参加しました。会場は満員、熱気にあふれ、オーガニック給食が全国的に注目されていました。



本年1月の山形県知事選挙では、吉村美栄子知事が5選を果たしました。引き続き「あつたかい県政」を実現してほしい。

衆院選、知事選



国政報告会

昨年10月に行われた衆議院議員選挙で、菊池大二郎さんが初当選です。地域の声を国政に届けてほしい、期待しています。

本年4月13日、二井宿活性化センターで行われた「舟山康江・菊池大二郎・芳賀道也 国政報告会」に参加しました。



同じく4月16日、高島町総合交流プラザにて、「芳賀道也国政報告会」が開催され、50名を超える町民が集いました。

木村まさひろ後援会

事務所

〒999-2178

高島町大字上平柳1995-15

連絡先 090-1379-1721

FAX 0238-57-3083

ホームページ: <https://masa-kimura.com/>

電子メール: kimura@masahiro.name

木村まさひろ
オフィシャルサイト



SNS

フェイスブック
Facebook



インスタグラム
Instagram



学校給食の利用を通して 有機農業の発展を

町長 有機農産物等の学校給食提供を予定している

きむらまさひろ
木村雅博 議員



▲食育教育の体験実習

問 町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

答 自給野菜組合の学校給食への提供や町内産デラウエアの提供などを予定している。
また、有機農産物の学校給食提供や、エコ



動画配信はこちらから

マルシェの開催を予定している。

会報「たぐつね」の周知を

問 農産物直売所や農家で構成するグリーンツーリズムネットワークでは、会報「たぐつね」を全戸に配布しているが、多くの方の目に触れることが必要ではないか。

答 全戸配布のほか、ネットワーク加盟会員やその他の町内の店頭において、来店者に手に取ってもらえるようにしている。
今後、ホームページ掲載等、広く周知できるようにしていく。

食農教育の取り組みを保護者にも

問 学校給食に有機農産物を利用することが町の重要施策となる。各学校での食育の取り組み等も広く保護者

にも知ってもらい、賢い消費者として地産地消につながるような働きかけが必要と思うかどうか。

答 学校では、毎月の献立表と共に、「給食だより」「食育だより」を発行し、食育・食農教育について広くお知らせしている。

食べ物が健やかな心と体を育む点から、今後保護者への情報発信を働きかけていく。

町独自の認証制度の計画について

問 環境に配慮した栽培方法で生産した農産物の町独自の認証制度は、いつ頃開始の予定か。

答 また、実施にあたって、多くの町民に選んでもらうことが重要であり、広く知ってもらう手立てが大切だと思うかどうか。

答 現在、原案を作成

し、内容を協議している。今年度中に具体的にまとめ、認証のマークなどをデザインし、商品の販売に活用できるようにシールを作成し、認証農家へ配布を予定している。

農協との積極的な関わりは

問 東南置賜2市2町では、各自自治体で有機農業の拠点があり、オーガニックビレッジ宣言等に取り組んでいる。広域的な連携についての町の考えは。
また、みどり戦略の事業を進めるうえで、農協の積極的な関わりが必要になるがどう考えるか。

答 県からの技術的な支援や、農協としての取り組みはまだこれからである。

機会を捉えて要望し他市町とも連携を図り県とも情報交換しながら進めてきたい。

きむらまさひろ
木村雅博 議員



次代を担う若者たちの 政治参加について

町長 若者が主権者意識を持つことは重要なこと

問 人口減少社会によ

る社会保障や基盤産業への影響、地球温暖化の深刻な被害等、これからの社会を考えると直に影響を受けるだろう若い世代の選挙における投票率が低い。若者の政治に対する根本的な考えを変える取り組み、いわゆる主権者教育をなすべきと考えるがいかがか。

答 若者が主権者意識を持つことは重要なことであると考えます。町では今年度から、中高生が地域の大人とつながり学ぶ「高畠チャレンジプロジェクト」を実施している。まずはこの事業で地域住民と関わり、まちづくりを通して社会の在り方を考える良い機会にして

ほしい。

若者たちの投票率
を上げる手立ては

答 山形県選挙管理委員会実施の高校3年生へのアンケート調査で選挙啓発出前講座の実施が、高校生に良い影響を及ぼしている。

また、家族の投票の有無が高校生の投票行動に極めて大きな影響を与えていることが明白になっている。保護者向けの選挙啓発が重要と思うがどうか。

答 家族の投票行動は子どもの投票行動に大きな影響を与えること

から、子どもと一緒に投票に行くことを周知するなど、保護者に対して継続した啓発活動を行いたい。

小学生議会、中学生議会を開催した実績がある。来年度、新庁舎が完成し、議場も新しくなることから、記念事業として「子ども議会」を開催してはどうか。

子ども議会の開催を

問 若者の主権者教育の有効な事例に「子ども議会」があげられる。近隣市町でも実施しており、当町でも過去に

答 過去に行った「子ども議会」は、課題もあり継続開催には至っていない。まずは今年スタートした高畠チャレンジプロジェクトで子どもた



▲高畠高校出前講座での模擬投票

ちの社会参画への意識を醸成したい。

地区公民館を拠点
とした中高生の地
域参加事業

問 各地区公民館の館長代理から地区事業などの話を聞く機会があり、共通課題としてコロナ禍による影響と、若い世代の地域参加に苦勞している件があげられた。高畠アートチャレンジの波及効果によるつながりや、中学生の部活動改革の受け皿としての文化活動等、各地区公民館を拠点とした受け皿づくりを企画してはどうか。

答 いかに若いうちから地域と関わっていくかが将来に向けての鍵である。文化活動も含めた中学校部活動の地域クラブ化によって、より選択の幅が広がる中で、地域事業における受け皿づくりについても検討したい。

動画配信はこちらから

